

コース外れる旅客機が多数

文京区 上空1日1125機も

羽田空港増便問題

羽田空港の増便計画をめぐって、国土交通省作成の現行の飛行コースを外れる旅客機が多数あり、問題になっています。文京区の住民が自宅上空の通過飛行機を調べたところ、コースを飛ばない飛行機が常態化していることが判明しました。このため文京区議会は住民提出の「本来の飛行コースの遵守」や騒音、安全対策などを求めた請願を賛成多数で採択しました。

住民の調査で判明

請願を出した住民は、同区千石在住の岩佐佳英さん(67、元アジア経済研究所職員)。調べ始めたのは、2012年6月9日夕刻、自宅に来ていた当時7歳の孫が、飛行機音を「雷だ」と間違えて、驚えたのがきっかけ。翌日から、自宅上空を通過した飛行機の時間や機数をほぼ3年間記録し、写真撮影や簡便な騒音測定も実施しました。自宅は、北区の飛行通過ポイントから3.5キロの距離にあります。

毎日数十機を確認

調査の結果、文京区千石周辺では、朝6時45分から夜9時47分まで125機が上空を通過(2013年5月29日)したほか、毎日数十機の上空通過を確認しました。

した。

騒音は、環境基準値(57デシベル)を超える68・1デシベルを記録、夜7時台の飛行音が大部分45デシベルを超えていました。岩佐さんは「テレビの音が聞こえづらく、夕刻2時間ほどは飛行音が途切れず続くとめ落着きません」と訴えています。

飛行高度については、航空会社のマークや、飛行機個体番号が識別できるほどの極端なケースも。南西から北東へ騒音を残して飛び去った超低空の旅客機を自撃(2013年7月21日)。「たまたまカメラで撮影したところ、機体番号JA704Aの全日空のボーイング777だったこのへ、この全日空便の姿は、首都上空が無法地帯になっていることを象徴している」

と指摘します。

上空通過の停止を

現行の飛行コース図を見れば、文京区は関係ないと思ってしまう。国交省航空局環境・地域振興課では「空にガードレールがあるわけではないので、飛行コースは、ここが標準という目安。外れても規制はない」と説明しています。

文京区議会は、議長名で文京区上空通過の停止などを求めた要望書を11月6日

教育現場に影響も

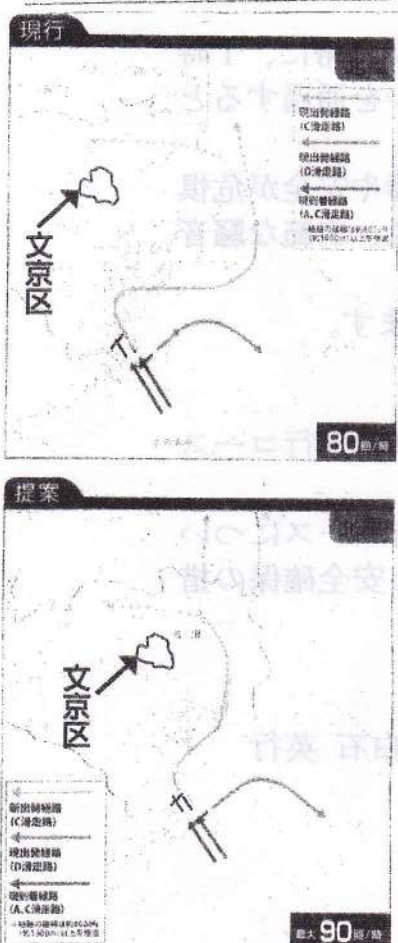
新飛行コースで心配されるのは、低空のまま荒川上空に進入する北風時の上昇コース。とくに荒川沿いの江東区や江戸川区で深刻な騒音被害が心配されます。江東区議の添谷良夫氏

(共産)は「飛行機の航跡を調べてみると、飛行コースを中心に多くは2、3キロの幅で飛行しており、騒音範囲の大きさが問題です。とくに上昇する時の騒音は大きく、荒川沿い城東地区の保育園、幼稚園、小中学校などへの影響が心配です。増便計画では、2、3分に1機の間隔で進入するので、校庭での授業やフ

2013年7月21日に撮影した超低空飛行の旅客機II岩佐佳英さん撮影



ラスバンドなどの部活にも大きな影響が出る恐れもあり、騒音被害は予想以上に深刻になると心配しています。各区の運動とも連携して何としても計画を撤回させたい」と強調しています。(松橋隆司)



北風時の現行の飛行経路と見直し案(国交省資料より)